

夢への道程



1 町民栄誉賞の表彰状を掲げる荒木選手と後藤町長 2 野球部と野球クラブの代表者5人にサイン色紙がプレゼントされた 3 荒木選手への横断幕に応援メッセージを書き込む子どもたち 4 2,000本安打を祝福するたくさんのメッセージが寄せられた

菊陽町町民栄誉賞授与式を昨年12月26日に図書館ホールで開催し、菊陽町出身で日本プロ野球中日ドラゴンズで活躍中の荒木雅博選手を表彰しました。荒木選手は、昨年6月3日の楽天イーグルスとの試合でプロ野球史上48人目の2,000本安打を達成。町では、達成と同時に庁舎に懸垂幕を掲げ、この偉業を祝福しました。プロ野球選手として22年間輝かしい活躍をし、町民に希望と元気を与えてくれた荒木選手の栄誉をたたえるため、町はこの偉業に先立ち、町民栄誉賞表彰の規則を定め、授与式の準備を進めてきました。

球クラブなどに所属する子どもたちなど合わせて約400人が出席しました。式では、後藤町長が「2,000本安打達成は、日々のためめぬ努力、鍛錬の結果だと思っています。菊陽町からこのような偉大な選手が誕生したことを大変うれしく思います。来季の次なる目標に向けてますますの活躍を期待しています」とあいさつ。菊陽町町民栄誉賞第1号となる荒木選手へ、表彰状と記念品を贈りました。また、来賓の坂本哲志衆議院議員から「一番大事なことは、人を育て、故郷から輩出した人材がまた郷土に恩返しをすることです。この繰り返しで地方を元気にします。小中学生も荒木選手を目指して、それぞれスポーツでも勉強でも奮

立っていただきたい」と祝辞がありました。その後、荒木選手から子どもたちに向けて「夢をかなえるヒント」という内容で講演がありました。荒木選手自身がプロ野球選手になるという夢を見つけた後、何をしてもこまで来たのか、体験談を基に子どもたちにも分かりやすく話してくれました。子どもたちは、荒木選手の話に目を輝かせ、真剣に聞き入っていました。その後、野球部と野球クラブの代表者5人が登壇

し、荒木選手に記念品として3,500人分の応援メッセージと花束を手渡しました。荒木選手は「ありがとう。頑張って」と子どもたちに声を掛け、力強い握手を交わしました。また、荒木選手からは、日頃の応援のお礼としてサイン色紙が贈られ、子どもたちはうれしそうに目を細めました。最後に、荒木選手からふるさと応援寄付金として、荒木選手の後援会から熊本地震の義援金として、菊陽町に寄付をいただきました。

荒木雅博選手の主な功績

- ◎生年月日 昭和52年9月13日(40歳)
- ◎所 属 中日ドラゴンズ
- ◎経 歴
 - 昭和59年3月 菊陽町立保育所さくら園卒園
 - 平成2年3月 菊陽町立菊陽中部小学校卒業
(町子ども会ソフトボール大会 大堀木優勝)
 - 平成5年3月 菊陽町立菊陽中学校卒業
(菊池郡中体連 菊陽中優勝)
 - 平成8年3月 熊本県立熊本工業高等学校卒業
(甲子園出場2回(平成6年春・平成7年春))
 - 平成8年 中日ドラゴンズ入団(ドラフト1位)
 - 平成16年 ゴールデングラブ賞受賞(初)
以降、平成21年まで連続受賞(6回)
 - 平成16年 ベストナイン受賞(初)
以降、平成18年まで連続受賞(3回)
 - 平成19年 盗塁王獲得
 - 平成19年 中日ドラゴンズ日本一に貢献
 - 平成20年 北京オリンピック出場
 - 平成29年6月3日 楽天戦第2打席
ライト前ヒットを放ち2,000本安打達成

- ◎記 録
 - ・通算378盗塁は、歴代11位(現役1位)
→ 歴代7人しかいない400盗塁まであと22
 - ・通算283犠打は、歴代10位(現役3位)
→ 歴代5人しかいない300犠打まであと17
 - ・平成16年度
シーズン9度の1試合4安打以上はプロ野球記録
 - ・平成17年度
打数623はセ・リーグシーズン記録
 - ・通算31度の1試合4安打以上は現役最多記録

町や地域への貢献活動

- ◎野球教室での指導、小中学校での講演
- ◎菊陽町企業・事業者交流促進研修会で「挑戦とリーダーシップ」と題して講演(平成25年1月9日)
- ◎毎年行われる野球大会(すぎなみ杯)へのボール寄贈
- ◎菊陽中学校野球部への横断幕寄贈
- ◎菊陽中部小学校へのゴールデングラブ賞トロフィー寄贈
(平成25年8月29日)
- ◎KCBブルースターズが主催する野球大会(紅葉杯)への優勝旗寄贈
- ◎2,000本安打達成を受け、色紙、写真、サインボールを町へ寄贈(平成29年7月6日)

さらなる高みを目指して ～菊陽町町民栄誉賞記念対談～

菊陽町で生まれ育ち、プロ野球選手として活躍している荒木雅博選手。荒木選手は子どもの頃からその才能の片鱗を見せ、中学では指導者にも恵まれ本格的に野球に打ち込みました。当時の教えが今でも身に付いていると話す荒木選手。どのようにしてここまで来て、2,000本安打、そして町民栄誉賞を受賞するに至ったかを対談してもらいました。



菊陽町長
後藤 三雄



菊陽町教育長
上川 幸俊



大堀木区長
渡邊 勲 さん

荒木選手の出身地区の現区長。区で2,000本安打祝福の横断幕を作成した。

町民栄誉賞を受けて

町長 この度の2,000本安打達成、本当におめでとうございます。

荒木 ありがとうございます。

町長 熊本地震で非常に重い雰囲気の中に2,000本安打の快挙を遂げられたという明るいニュースが飛び込んできて大変うれしく思っています。達成直後、庁舎内でも歓声が上がり、すぐに懸垂幕を設置してお祝いしました。町民栄誉賞というのは、菊陽町から、日本そして世界へ羽ばたいた人物をたたえるためのものです。その第一号として荒木選手は拔群のモデルとなられるということで、町民栄誉賞を授与させていただいたところです。

荒木 菊陽町初の町民栄誉賞という名誉な賞をいただき大

変感激しています。この賞に恥じぬようにもっともつと上を目指して頑張っていこうと決意しました。これも町長をはじめ町民の皆さんのご声援あつてのことと心から感謝しています。

野球の原点

豊住 私は荒木選手を小さいころから知っています。地区対抗の子ども会ソフトボール大会があつたときに「グローブさばきがうまいね」と声をかけたことを今でも覚えています。そのころから目立っていましたね。荒木選手が中学生になる前に、丸山くんが菊陽中野球部の監督になってほしいとお願ひしたんですよ。今思えば、それが荒木選手の一つの原点になったのではないかと思います。

丸山 私は、豊住さんに頼ま

れて監督になりました。当時の野球部の練習を見て、何とかしてやらんといかんと思ひ、角が生えるような指導をしてきました。

荒木 たしかに角が生えていましたね笑。でも、その練習内容全てが今までの野球人生に通用しているなという、本当の野球の原点です。あの頃の練習が、今までの練習の中で一番きつかったですね。高校、プロ含めて。とにかく体の基礎、野球をやるための基礎を作ってもらいました。

丸山 ある公式戦で、荒木選手が送りバントをスリーバントまで失敗したので、1カ月間送りバントの練習だけさせたことがあります。

荒木 できないことをできるようにするためには、それくらいの練習が必要だったんだと思います。毎日バント練習を繰り返していました。丸山

さんの指導のおかげで、私はプロ野球選手になっても、失敗したらできるようにするまで繰り返し練習するという教えが身に付いています。

プロ野球選手として

町長 入団前は、どんな選手になりたいと思っていましたか。

荒木 入団前は、プロ野球に入ってどこまでやっていけるのか、ついていけるのか、この技術でやっていけるのかと思ったこともありましたが。どういう選手になりたいという段階ではなかったですね。でも、プロ野球選手として練習や試合を積み重ねる中で、自分のスタイルを見つけてきたという感じです。残り何年かは、まだ見つけられていないものを見つけていこうかなと思っています。

渡邊 来年は、400盗塁などが目標ですか。

荒木 400盗塁まであと22です。今の自分には少し遠いですが、厳しい目標を立てていこうと思います。

渡邊 ぜひとも達成してもらいたいですね。大堀木では2,000本安打を達成した時に、区で横断幕を作って大堀木公民館近くの橋に掲げました。出身地区として、荒木選手の活躍はうれしいです。

荒木 父から「こんなにやってもらっているぞ」と連絡が来て知っていました。ありがとうございます。

教育長 12月3日には子どもたちのために野球教室を開いて指導していただきありがとうございます。

荒木 長い間レギュラーを張り、2,000本安打も達成しましたから、熊本で野球教室をやると子どもたちが目を

ギラギラにして聞いてくれるので、こつちもその気になって教えました。

町長 いろんな場面で、町民に元氣と感動を与えていただいて、本当にありがたいです。

夢に向かって

町長 今日荒木選手にお渡しした応援メッセージの中に、「荒木選手のように最後まで諦めずに自分の力を出し切って一つのことに一生懸命になれる人になりたい」とや「荒木選手のように努力を継続することを大事にしていきたい」という感想が寄せられています。これから夢に向かっていく子どもたちに一言お願いします。

荒木 夢は簡単になうものではないと思うので相当の覚悟を持たないといけません。とにかく毎日同じことを繰り返

返していくこと。そうすると見えてくるものがあるだろうから、その中で課題を克服していってほしいです。ただ単に、今日はこれをやって、明日はまた違うことをやって：となると、課題はなかなか見えてきません。繰り返しの中で周りの人もそれを見ているだろうし、その中で今日はこんなじゃないのと教えてくれる人もいるだろうし。一番大事なことは、とことん繰り返す。これだけです。私はそのようにしてきました。

教育長 子どもたちには、自分の夢を持つて、その夢を実現するために努力できる人間になってほしいと願っています。努力するということは、非常に難しいことで、これは一つの才能だと思いますが、それをぜひ子どもたちには身に付けていってほしいです。自分の将来をきちんと見据え

て、努力をしていかれたという荒木選手の講演を、子どもたちもうなずきながら聞いていましたので、非常にありがたかったです。

町長 荒木選手の今後の夢や目標は何ですか。

荒木 400盗塁、300犠打が切りのいいところですので、厳しくはなってきたいますがそこを目指して取り組んでいきます。また、熊本でオールスターゲームがあるのので、それに出られるように頑張っていきたいと思っています。

町長 今日は夢を持つこと、夢がかなうように繰り返し努力することなど、大事なことを教えていただきました。荒木選手の活躍を町民一同、精いっぱい応援していきます。

今日の講演を聞いた子どもたちの中から、荒木選手に続く人材が輩出されることを期待しています。



中学時代の思い出話や夢に向かう姿勢など、和やかな雰囲気の中で対談が行われた。



大堀木区が作成した横断幕。役場東側の町道熊本空港線に架かる大堀木橋に設置された。



中日ドラゴンズ
荒木 雅博 選手



菊陽町体育協会長
豊住 充彦 さん

町野球協会副会長も務める。小学生時代の荒木選手を見て素質を感じた。



菊陽中元野球部監督
丸山 伸一 さん

中学時代の野球部の恩師。荒木選手の「野球の原点」となる指導をした。

荒木雅博野球教室

荒木雅博野球教室が昨年12月3日、母校である菊陽中学校グラウンドで開催されました。荒木選手や中日ドラゴンズの選手から直接野球指導を受けた子どもたちに話を聞きました。



菊陽中野球部主将
まきの
牧野 真也 さん

荒木選手は目標であり憧れです。菊陽町出身なので身近に感じます。バッティング練習では一人一人のフォームを見て個別指導してもらい、守備練習ではさまざまな場面ごとにどう動くかを教えてもらいました。プロのすごさを感じました。支えてくれている多くの人への感謝を忘れず、これからも練習を頑張ります。



菊陽中野球部副主将
ひろたこうたろう
廣田浩太郎 さん

小学生以来2回目の野球教室でした。荒木選手からのアドバイスを実践するとスムーズにバットが振れました。同じ大堀木出身と伝えたと「応援してるよ」と声を掛けてもらいました。じかに教わるのができてうれしかったです。中体連優勝という目標に向かってチーム一丸となって頑張ります。

上川教育長は「子どもたちには夢を持ち、実現するために努力できる人間になってほしい」と話します。荒木選手が夢をつかんだのは、努力を続けたからでした。しかし、努力を続ける姿勢を身に付け

努力の後押し

荒木選手は「夢は簡単にかなうものではない」ともいいます。原動力は、できないことをできるまで練習し続けて野球の基礎を作った中学時代と、課題を乗り越えてもさらに次の課題を見つける向上心、そして必ず夢をかなえるという「覚悟」でした。こうして努力の姿勢を身に付けた荒木選手は、夢をかなえた今でも走り続けています。

菊陽町から日本、世界へ

荒木選手は今、野球教室の開催や野球大会へのボールの寄贈など、野球を通じて町の子どもたちを支えてくれています。子どもの頃、荒木選手に野球を教えたくれた大人たちがのように、今度は荒木選手が身に付けたものを次の世代へとつないでいるのです。荒木選手の2,000本安打達成は、町民の勇気と励みになりました。荒木選手が教えてくれた「夢をかなえるヒント」は、子どもたちだけでなく、大人にも通じるものでした。大きな目標のために、目の前のステップを一つずつクリアしていくことで、荒木選手に続いて、菊陽町から日本、そして世界へ羽ばたく子どもたちが育つことを願っています。

夢は逆算してつかめ

私は、菊陽町大堀木の出身で、18歳まで住んでいました。小さい頃は、人前に出ることがすごく恥ずかしく、勉強もできず、多少スポーツがうまいぐらいの子どもでした。しかし、そういう私が、どうやってここまでやってきたのか、「夢をかなえるヒント」を教えたいと思います。

君たち、夢がありますか。まだない人は、これから夢を見つけてください。私は、中学3年生の野球の部活動が終わった頃にプロ野球選手になりたいと思いました。その夢をかなえるためにはどうしたらいいのかを「逆算」していきま

る▼ドラフト会議にかかるためには、12球団のスカウトの人に見てもらおう▼スカウトの人に見てもらおうためには、甲子園に出る▼甲子園に出るためには、当時熊本で一番強かった熊本工業高校に入る→そう逆算し、「勉強」を始めました。皆さんも、自分の夢を掲げたら、それに向かってやってみようと思えます。しかし、自分でこうなりたいという夢を持ったなら、そのためにはこうなりたい、その次にこうなりたいと目標を積み重ねて考えてみてください。私はそうやってやってきたおかげで、プロ野球選手になり、22年という長い間第一線で試合に出て、2,000本安打という大きな目標を達成することができました。これは今まで関わってくれた皆さんのおかげであり、感謝しています。みんなも何かに取り組むときには、お父さんやお母さん、周りの人に手伝ってもらっていきましょう。ですから、まず今日帰ったら「ありがとう」と言ってみてください。それだけで、明日からの生活が変わるはずです。

君たちがこの町で野球をやって、有名な選手が出てくるといいですね。菊陽町がどんどん盛り上がってくれると私もうれしいです。

そのためには、私が今日話したことをしっかりと心に留めて、日々の練習に励んでください。



町民栄誉賞授与式の中で講演をする荒木選手。時折、子どもたちにげきを飛ばす場面も。夢をかなえるヒントを子どもたちに伝えるように分かりやすく話された。